

原爆死没者慰霊等施設基本構想 中間報告書（要約）

I. 施設の設置の基本理念

人類史上初めて広島及び長崎に投下された原子爆弾は、未曾有の悲惨な結果をもたらしたが、原爆によって生命を失った人々に対する哀悼の気持ちは全ての国民が等しく抱いているところであり、原爆死没者全体に対する永続的な慰霊の場を設けることは必要である。

原爆被害の記憶を有する人々は少なくなり、一部には原爆体験の風化を懸念する声もある。このような現状にかんがみ、原爆の資料・情報を幅広く収集整理して後代に継承していくことは、現在生きている我々の歴史に対する責任である。

原爆の悲惨な現状を世界に伝えていくことは、唯一の原爆被爆国である我が国の役割であり、再び広島・長崎の悲劇を地球上に繰り返さないことを求めるとともに、世界の恒久平和の確立を訴えていかなければならない。

また、悲惨な過去を振り返るにととまらず、未来志向的な見地から、原爆被害に関する蓄積を基に、国際社会に貢献していく必要があるとともに、内外の関係者の協力を得てネットワークを形成し、互いに交流しあうことが必要である。

このような基本的な理念を具体化するために、本施設には次の三つの機能をもたせることが適切である。

1. 慰霊の場とする。
2. 資料・情報の継承の拠点とする。
3. 国際的な貢献を行う拠点とする。

II. 機能の具体的内容

1. 慰霊・平和記念

(1) 慰霊・平和記念のための展示

原爆に関する諸資料を展示し、被爆の実態、被爆者の心情や遺族の気持ちを率直に見学者に伝える。

(2) 慰霊・平和記念の交流

原爆に関する諸問題について、出会いや交流、さらに学習、情報交換の場を設ける。

(3) 原爆死没者情報の検索機能

原爆死没者一人一人のライフストーリーを明らかにし保存するため、死没者情報検索システムを構築する。

2. 資料情報の収集、利用

(1) 情報の総合化

国内外に散在する資料情報を総合的に把握するとともに、利用者が求める資料等の所在や概要に関する情報を短時間で検索できるシステム（資料情報検索システム）を構築する。また、利用者のニーズに応じたレファレンスサービスを行う。

(2) 補完的機能

国立の施設でないとい収集できない資料情報や、これまでに必ずしも十分手がつけられていなかった資料情報等を収集し、既存の関係機関の活動を補完する。

(3) 情報の創造

収集された資料を活用・研究して、新たな情報の創造を図る。

(4) 情報の伝達

利用者に適切な情報を提供する。

(5) 情報の共用

国内外の他の類似施設等と情報ネットワークを構築し、資料情報の交換、人的交流を行う。

3. 国際協力及び交流

(1) コーディネータ機能

専門家等の派遣や受入れについて、施設や制度を紹介・調整する。

(2) 情報の発信

世界各地域へ関係情報を発信するとともに、情報の受信も積極的に行う。

Ⅲ. 施設の設置場所

広島・長崎両市と原爆は密接な関係があり、

当地には原爆被爆者やその遺族の多くが今も住んでいること等を考慮すると、施設を両市に設置することが適当である。

Ⅳ. 施設の運営

運営の主体は、持続的に活性化できる組織を構成するという視点から、人・事業・財政面において柔軟で開かれている民間の活力を有効に使っていくことが必要である。

この見地からすると、経営基盤が確立され、この施設を運営するにふさわしい公益法人に委託することが現状では望ましいものと考えられる。